

心理事象を表す部分の与格構文についての考察

川上 夏林
(京都大学大学院)

心理動詞は経験者が置かれる統語的位置から以下(1)のように三つのタイプに分類されてきた。経験者が主語に置かれるI型、目的語に置かれるII型、間接目的語に置かれるIII型に分類される(cf. Ruwet1993)。これまでII型は盛んに議論されてきたが、I型、III型はそれほど多くの関心を寄せることはなかった。これに対して本論では、(1)III型と同じように経験者が与格表示される以下(2)の現象について論じる。

- (1) I型 aimer, haïr, détester, craindre, respecter, admirer, mépriser, envier, etc.
II型 amuser, dégouter, effrayer, impressionner, préoccuper, surprendre, etc.
III型 plaire, déplaire, répugner, etc.
- (2) a. Cette histoire commençait à me casser les pieds. (Yoshimoto Banana, *Dur, dur*)
b. Une boule d'émotion me noue la gorge. (Wataya Risa, *Appel du pied*, 以下 A)
c. Ce livre lui a frappé l'esprit. (Ruwet1993)

問題は、どのようなメカニズムに基づいて現象(2)の心理事象解釈は生まれるのかという点にある。(2)の心理事象解釈は動詞の語彙的意味に求めることはできない。加えて、(2)の与格は拡大与格と呼ばれ、動詞の項構造には登録されていない項であることから、この現象を語彙意味論の枠組み内で論じることは難しいと考えられる。

(2)の与格は拡大与格の中でも部分の与格と呼ばれるタイプであるが、部分の与格構文は事例(3)のような物理的動作や事例(4)のような感覚事象を表す構文としても機能する。したがって上記の問いに答えるには、(3)のような感覚事象を表す現象との相違も明らかにする必要がある。

- (3) a. Cette fois, il me pince la peau entre deux doigts. (Wataya Risa, *Trembler te va si bien*, 以下 T)
b. Elle me prit le bras. (Jean-Philippe Toussaint, *Fuir*, 以下 F)
c. Lorsque son bras m'enveloppait les épaules, j'avais l'impression d'être transportée sur un nuage. (T)
- (4) a. Des courants d'air chaud, brûlant, me cinglaient le visage. (F)
b. Le jus de pêche me pique les lèvres. (A)
c. Un son de clochette, très aigu, à me casser les oreilles. (A)

以上の問題に対して本論では、まずは、構文文法論の枠組みから拡大与格構文内における内的経験を表す部分の与格構文の位置付けを検討し、その構文的意味を示す。そして、「作用域の転換」から(2)心理事象と(4)感覚事象の違いを明らかにする。最後に(1)II型の動詞も部分の与格構文に現れる現象に注目し、心理事象を表す動詞構文がネットワークを形成していることを示す。